



平家物語 十

リ印
1760
8





平家物語卷第十

文覺房發心同緣事

波尾橋門妻子事

文覺兵衛次郎對面事

兵衛次郎娘信院室事

淨土園同代兼隆被討事

石橋台戰事

三浦人之小將軍事

同家皇軍

皇清以敗落後治本房圖書

弘治經亂寧多變錄

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 皇清, 弘治, and 寧多變錄.

お懐よとてしむるハ心せうしくして物くは
しきやうなれとも父少と母少とりれ
てみたり子とて懐しあはる胡夕ハ毎か
らやといせまうぬよりか久此事をま
るそわひる月孝をふそとそしそ家
へ通するよハはれともほい^{中意}なそし
け^報う^報行^恩んのもうまじかりは違は大
ちうわうれ第一者とし小めえくし

シ一後小倉とてむしむく也東二北野ハカ
じり人の家と復ハ十八少して出家して
いまふのつるりて山林をううれむじや
たりたむむう者一竹ハ修ん北野三
志教といやの佛はうり業うり乃このと志
中二ま一とちひはひのれん當何と
むくくも仏に具りうれぬるう一ぬ
るまきくと復原よハ行くまれつとやうと

八大龍王ハあられと修り人むの城あり
海やうらん志うけう城とて海身あり
復くる小里うりなまハ物乃とちうすさね
するよ一と里うりうり先くとハ中一城也ハ
中二まのりうとむやハ者うり何うとて
つらうも始くハ乃の出家一と案林
しやらこむりて佛に具りうり乃の
はん城と一修りむしよハ八大龍王うり

よきものなれは——かたじけなくも
く一人をまじりんとちひは法に
頼まわすすいふくも乃りて
あうやういひは法に——
よし法に包——今迄うこ——やう
大業なりやうき——そりんそり
なるや法に——いひは法に
からあ——いひは法に——

まことなり人乃りまじりて
そりんそりいひは法に
なるや法に——いひは法に
そりんそりいひは法に
く一人をまじりんとちひは法に
いひは法に——いひは法に
なるや法に——いひは法に
小里りてまじりて風波乃りて

しをのくれありさま成ん又むしりく
りはたかうきあり乃山を月まにけり
路もんとまき継せられハ何ん乃しと
よまよ上よわいけりるまうる程れある時
かしらあまきまはたあうるまきしりは
らうくあられこたわく海へ小町さうまな
うぶのあなすすまもてしりやうれ風
くしんわききまもるあまもてし上路
ん

うぶ入あまのし路あびりるま目なれまよ
まのあひ路りしりして世乃御殿及京の
うまのしりまもあまもてし夜まじりるあ
はしりしはあまのあまのし路りるまは
方多んとおほいぬ色しりしりしりし
しりしりしりしりしりしりしりしりし
ら子あくをりしりしりしりしりしりし
れちりしりしりしりしりしりしりしりし

船乃じつひと也 柁法いづりよ公とあく果と
中八国公よつ 柁よ急法とれそりん志う
よ也すす来あうし 柁をりそし行ん場
いし何所危か来むし 由れしやう志とら
るのふを海い乃 柁よさかうて又あう
れ若海とらるもあうまじ 柁乃うへり性
生とくかさうと也さめふあそんもすこれ
りこ成乃そまうん 柁とあふ文乃子

とあしゆのやうは事よふれてあうとん
しあうあく柁をくしよしうらへ 柁と志と
實よ道公とあこととあめハぢし 柁究あそん
乃中よ生ゆかそとさしよぢりける 柁六
縣の陸といひける 男ハうり柁と志とるこり
くもんかめり弟子よ成くわりあれハ文覚
かひさうけく柁とハ文知とそつはう電は
る也乃かりれあめハ 柁海なりそは柁ん

吾ちちやりのハ新人の我よと成るる
その吾ちやりのと由じらん我をこころ友
よはよになすあくる日とあはせし
かゝる天をよひふそのよなるなりむら
乃うじんをたす人あうゆんをたす
すゝふ事なりしとるるはくをさるる
也ふそむりんかゝる海國より大なる人を
さうしとくいんく家よりしとあひ友郷へゆく

か乃神に身成るもそよと人治らふ人下
はくすてあじしとたもも命をたす
絶をうすすもくも人むあしとるる
今今日より七日中よ死ぬ人しとを治
やくあはせしとすすゆもあしとるる
大一月よりよしとくあはせしとるる
さうしとるも人むあしとるる
ちとてつりてあはせしとるる

むしいの音よりいふ思ふ事一盡心なること
乃志願し一もつひのよハうふ^影屋^現りけん一
志願事あるもこれわらねらりもたもいふ
られてわられせなれハよらふ事なく代
と志願し一もつひのよハうふ^影屋^現りけん一
思ふ事なく一途もなれらぬをなすらぬ
そくしん実よいふ事なく一りむるいふりか
とてと下る人うんむしひりり柝をむしひりり

たう志願し一もつひのよハうふ^影屋^現りけん一
むしひの音よりいふ思ふ事一盡心なること
乃志願し一もつひのよハうふ^影屋^現りけん一
志願事あるもこれわらねらりもたもいふ
られてわられせなれハよらふ事なく代
と志願し一もつひのよハうふ^影屋^現りけん一
思ふ事なく一途もなれらぬをなすらぬ
そくしん実よいふ事なく一りむるいふりか
とてと下る人うんむしひりり柝をむしひりり

とらるるんをいひまじりてはるは申はなかり
射りてるといふまゝの二一門なりもたう一死
甲ふをちてくすもれいひふいりありた
とこころいふたさむをたう甲もれはたうこ
むとちてくす一門なりとて目これちてり
いふまゝといふまゝといふまゝといふまゝ
とらるるんをいひまじりてはるは申はなかり
射りてるといふまゝの二一門なりもたう一死
甲ふをちてくすもれいひふいりありた
とこころいふたさむをたう甲もれはたうこ
むとちてくす一門なりとて目これちてり
いふまゝといふまゝといふまゝといふまゝ

ういふまゝといふまゝといふまゝといふまゝ
とらるるんをいひまじりてはるは申はなかり
射りてるといふまゝの二一門なりもたう一死
甲ふをちてくすもれいひふいりありた
とこころいふたさむをたう甲もれはたうこ
むとちてくす一門なりとて目これちてり
いふまゝといふまゝといふまゝといふまゝ
とらるるんをいひまじりてはるは申はなかり
射りてるといふまゝの二一門なりもたう一死
甲ふをちてくすもれいひふいりありた
とこころいふたさむをたう甲もれはたうこ
むとちてくす一門なりとて目これちてり
いふまゝといふまゝといふまゝといふまゝ

と思ふ也者も申恋ししやうるたぢい
まにけしや思ふ事なれはこころうりぬそ
しほなれとも縁さしちよもいふは
たあしもなれそもなこころは海かめ
甲とゆはこころはよあそやとそしは
まにこれ成すてはこころは福名よふ
しそわんたもはや力清さうこころは
てはこころは福名をこころは福名よふ

と涙を流ししやうるたぢい
まにけしや思ふ事なれはこころうりぬそ
しほなれとも縁さしちよもいふは
たあしもなれそもなこころは海かめ
甲とゆはこころはよあそやとそしは
まにこれ成すてはこころは福名よふ
しそわんたもはや力清さうこころは
てはこころは福名をこころは福名よふ

一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
一九〇
一九一
一九二
一九三
一九四
一九五
一九六
一九七
一九八
一九九
二〇〇

一六六
一六七
一六八
一六九
一七〇
一七一
一七二
一七三
一七四
一七五
一七六
一七七
一七八
一七九
一八〇
一八一
一八二
一八三
一八四
一八五
一八六
一八七
一八八
一八九
二〇〇

海やんらるるえりん夜にせむれ御くひ汝
と我よりまじくせむ復あるる徳をへん
道なれむらり汝れへく金いりんをくわさ
海に浪とくは浪とせしやもれいりんと
わさしやと思はれた先かたさるるくひされ
いりて見たりれしとていんていんて
うう一我れいりほるせむ乃くひよてゆれ
心なれむと一先みくはるるりゆれや

れ先れさむの夢をたしすやかへんあり
うはさしよのぬなむとも恋れみちよはゆい
りりもの海よりあさしと若てむつと若
海にたさむをむらり四海よりありて乃ち
かうれものさるるも海にありては
すと思はくはよちくへん換もなりあり
一若悦たりあしたれりんらうなまふ
いのさしとていんていんていん

火とろり中胡よんじみ人香れ思とけり
せいのり雲られ書よハまんだい乃れを
世すもろりん一いさるそ一節

三三少少うま書まひくすは書れしよとさくみま
とそとさうわさいはれ日本國を改めさる
やうれあらんう一秘んころかり乃れよハこ
うな記智之やよなりそとむじく庵いそ
中しれ利えんとさうあやうけんう人

母ふとられたりけのあさるわくあん一知さ
くくさ葉子はらあまよはる書とんそは
純くこのあらんそわんとはよはせるそ中
そと一なるうらんねんの今んけりそは
んくとはたよくはれいさるそなほくさる
うくはくらんそとんあさりあんあう
世く其挽れいそれそとさしは事よそ
そとさしはれあるん中しれはこしうん

國よ下つてゆく毎月とるまに様一りや
衆祀るり賜入りこつふあやうさだ也
いふ事一りあやうさくさく人ほんる世丹
ちあつてますまじつて皮取よあへく一
人取もあへく衆なすて一守りつてく、
一やんれ像とわんちくまへく半家とま
ゆえ一りあか乃たゆふ二十町れ先田
またわりはさうりそまふゆやとつて

一万人よりくはあるぬれりあつてよか
りの少神一三そとさうさふんまよあ
こを足こくさけのあかりさうりん今み
てはえつふさるたこ一人あへ湯屋れ東
あをえんりつるまじつてあはあは
まろあうらりあへくまたりこつはさるた
とこれさくさくのあへくあへく一人あへあ
さだよ衆はる人乃下人とたかりつてと

りす大なるうらんよがきほふくしむらうまあり
たれハ小松殿よつづくハ殿も目お國のおり
きこたりほふへぬ人よそたふすしよふあふ
事ハあふふまもやちんそびしーて目お
國れたしやううんとたりほへかつうハ夫乃
わふとさううたれそあそくせうしうそんそ
おくゆえれハおくそあそくそんそんそ
といふあんとありのむしうくあくしん

たれとさううたれそあそくそんそ
ハ夫をふしう明主なりたれそんこは後
きくそんそ主れ御もあひあふんそんそ
おさうそく目おん國おんそあはあひあひ
あふらふそんそわうそんそあひあひあひ
もあふりすあふ板おと飯ハ夫をいふれん
とらんそそそくあひあひあひあひ
しほふへぬそとははうそあひあひあひ

とわらふまはれハ依にほえれけさふんめく
あそけし一又まのふくちるるに徳たのめな
まハわくろくさひよりてまらなむあひささ
くふりまをりくえとれく半家よしく
てぢんちつみせろく後人とはるる屋敷
とわがえれれれハ依乃さまひけるハ云
曆元色乃去乃比し中池ハあま御前
まゆらまを命とてまてま國は行てて

余色と減ら中ぬ又池乃あま御前
しあがりしハ毎日ハ依に御と二部
一節とハ池乃后御前ハあま御前
まゆらまを命とてまてま國は行てて
あふ又あま御前ハ依に御と二部
乃まのハ月ハ光よさあま御前
中はまをいれいさくハあま御前
まハ思まをまをまをまをまを

てわりーとさへなうるをーとわひてまひ
りー毎ふろーころんまーなぬとわらぬせ
ハヤウウとくわるとのまれのみるる夜よ
たい先むの事もわらぬもりとん道はく
よれとみんをまーてこいりて物産あり
とそくひーひく人先よふ家おのり入を
あーくーる屋ーもて家をたうたれて物産
よふもーとて物産さく人とたんぬとて人

おひーていもーとくーとらうーとくーとら
よふもーとて夢とわらて家とんたうーと
せよとわらひいふくくと物とそとわらうーと
んまー人さくぬとひくよふ天をたうぬと物
よふもーとてまーとわらたりぬいよとの物
みらぬとや夜せよあつてはわりしよま
屋りんぬ屋へのたあふとそとらあらぬと
物とゆーと念仏とて物乃昔よふあひとく

書信ひくはれさし乃道とてあまきぬを令
てさるるしとちささるれは人者んをみじと
たふとあくひやととあひいされはゆやあふ
うたれわりのけるこそわとれあしとてあては
申一乃事ふわしととあひいされはゆやあふ
かちう様とて父れわうへと因らとてあては
たやとて神とて乃神とてわらひとてあては
ははれはれいふは乃とてあてはれはれいふはれ
いふはれはれいふは乃とてあてはれはれいふは

あまきぬを令
てさるるしとち
ささるれは人者
んをみじと
たふとあくひ
やととあひい
されはゆやあ
ふ
うたれわりの
けるこそわと
れあしとてあ
ては
申一乃事ふわ
しととあひい
されはゆやあ
ふ
かちう様とて
父れわうへと
因らとてあて
は
たやとて神と
て乃神とてわ
らひとてあて
は
ははれはれい
ふは乃とてあ
てはれはれい
ふは

瑞穂ひるふ夜ふゆなれく光能郷れと
ふりそくはちやあはるはちの乃女
庭さよと元そふや秋はくくちりま
こひ女くくはひんしてまもあはる
よこちあはるゆめいふとあはるはひん
せくちくくくくくくくくくくくく
わあいこせとくあはるはちの乃女
さくくくくくくくくくくくくく

て海やさそくくくくくくくくく
昔は秋頼朝くくくくくくくくく
もさくくくくくくくくくくくく
そくくくくくくくくくくくくく
よく君乃所くくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくく
光くまいそくくくくくくくくく
一人もさくくくくくくくくくく

そふやうに皇よすを給へといひたれど先
能御はふと思ひかきうらに先らねを給
神く世乃すつりともをさりて先なる家と
春議右を御侍皇大臣又推大臣之宿なる
平家もや先をさして心うり魚飲のつりた
りたれたれたふふまよふと心まをうりし
て所氣起せしるる一つあつらふもなき人
さしよこしむる先いふ二三日の程にさし

よたにせよとてうれ候もわけぬ次は朝よ
みつりの御院系縁の夕よ海くも乃事
心まあてししよを思ふありしわけれを
とじくあしきよみよはかきかきわつり次乃目
まじり給ひて祀りふ所氣をいふうらに給
ひあははは思給乃わりけ給ひあつらひしう
しよをさしよみよはつらふもあつらふ
あつらひしよをさしよあつらふもあつらふ

けしとハ思はれはむわんねんたの命のつとむ
いふわん人々んとあはれしつとむつとむせは
ましてよるふ所をうしんわて高相はり
つとむ場所りしすすやうせんとぬうけ
南殿よしげをもつ場所ひてふりともむを
知くせりらし船てことせりさく屋の二乃
まいさう河うし先途へとさう敷乃所
ひ法わりけふせりさうあつひはせはは

乃目一周一敷所は場いわりさく福のさくハ生
生面加護れ所ちういしつとむすハ可んあう
せこれ途へと御せしんせりたていけり
中よ場所始いしははは曉るふはははは
あも死く後らうませありしはははははは
よちうのさくせりせりせりせりせり
羽乃矢といてらと死よんさみく南殿よ
わしこもて後りりあふさのうとは入る福あ

甲申年七月六日
初と名なるを御法入
ちしていとまみ
御法入
無
始りりくく
手うらわ
可早進討法盛入道并一類事

石彼一類非息緒
佛神怨敵為
類初直令進討
執達如件

治承四年七月六日
前右兵衛尉
とそわさしうりける

まりてあましく教乃とて入むるに八上人
大美蔭とすくあつるも。苗圃に土を
んこの二本よきんとしてくま川なり衆
四郎海波よきまふ言くはくは入り石
けいの名せんの毎こちうとこれ上よは泥せ
んとよこちうよ。ふとつひは強しつりとも
岡えり一。時時あつるはくは入り衆の
衆衆あつるはくは入り衆の

院堂を給く小陳四郎海波とまのこころせて
いりともくあつるはくは入り衆の
八ヶ岡仲ふうれり君乃御衆人なる衆の
八浪ちつさの今八郎初らつて年家れはらん
たうあつるはくは入り衆の
つこの衆よあつるはくは入り衆の
けりともくあつるはくは入り衆の
今八郎初らつての衆衆あつるはくは入り衆の

大介よりわらうば三人とてうらひ給へし事
うらとてうらひ給へし事うらひ給へし事
さねやとてうら給へし事うらひ給へし事
一息とてうら給へし事うらひ給へし事
らんとてうら給へし事うらひ給へし事
れとてうら給へし事うらひ給へし事
兄弟いなまよとてうら給へし事うらひ給へし事
けふとてうら給へし事うらひ給へし事

うらわのきり兄弟二人平家より給へし事
うらとてうら給へし事うらひ給へし事
一息とてうら給へし事うらひ給へし事
代さうとてうら給へし事うらひ給へし事
平家乃大介とてうら給へし事うらひ給へし事
てまうとてうら給へし事うらひ給へし事
うらとてうら給へし事うらひ給へし事
うらとてうら給へし事うらひ給へし事

奥列へ獄をせ給へて下してハヨウ九節ノは
りせをててつて給給へ子やのさつら
下つて給くをうりて居てとて決りて
りり十二目さつつかと給りて申くす
ハ此事うて一浪取の事なりとのいさ給ひ
らてつてつる也 若くはつらつらんと思給ひ
し神妙よ東うりさうハやうてきよ服へと
そめん給ひられとていそよはりり給く兼

ともて急をうて物のなをせと給くす人
さういふてぬよと申す人中也つて世に
あつて乃ていふひさくはつていふて
とて給ひて十六日ハハの給て申すれ
ちんちと給つげと給て乃てのよを
あつていふひさくはつていふて
とて給ひて乃て申すひさくはつて
とて給ひて乃て申すひさくはつて

席にありては、
福くるに、
席をさし、
久中お、
つら、
ま、
あり、

ほ、
て、
也、
因、
か、
れ、
と、
こ、

ふりて約つ道と夜半家乃家人たり因
乃とく代いは見乃判官の口たつたか
春うらよあるなれとてそて頼らよせん
たもあやうらせんうら志ういせ
角うらたや路うら八尾そあき無匠へ
あき路うてうらとてうみ尾うま乃う心
又し人ともあう心ぬういせうるへしは依
依ま乃このあまよ尾くちくさるきういさ

見し無しそやいなされと乃ぬいあれは海
ちさちけるハと夜とあううくおらんし
三輪大明神乃御神のあううう因乃中よ
耳矣ととらあうとあうハうああ
乃ちと治法へた目あくも如明日とては
とて出ようりう程よ作るまれ兄弟十
七日初うう乃何んしりよ水除へそはく
兵衛作わをせ乃少彼よあ由しりのこる後

乃日と夜目よりのくはわつしむ國目代
いはんぬの別友平乃のうをうの婦人
思はるよらあをさあく明日みくさふ
くそら目さそを無明日ハさうしん乃
目あり十九日そ目ありあし一昨日そ
乃をたぬくわけちふふあそをれ也と
あゆむそと乃さまひをれそと節に節を
と清保し人あり婦しは程の大雨水

しあそいそよと目さそとさそとさそと
あれハわをれぬえん乃事試さうハさあ
とみほとらさまひをれそとあそとあそ
屋すそそわりける程よ目すそとさそと
候なり也又とさそと候わりとをのく物
とさこれへとわりをれそを屋そと物そと
りりこれとをよわさそとさそとさそと
しとせとこり先あそとわりけるさそと

乞へりまけるなりこゝろ氣文をさへくさう
よこつりなハ一ちをうあそられぬ包られハか
乃中ここせハくをたせこゝろをさりこゝろ
かたらよまうあんとるやいもや内あひ
うらぬるとこらよたうーハ包らりまう
しん乃後あくゆせ乃う人じ〇との後京十
又六人の伊是乃さうこらあくよ抱えと
わそとむとく物さ道後ぬあんとく女余

人長徳をたんとこむをまふんぬまくとせ
ゆりまのりけよハまくとくと秋とあそ
うの包と乃こまんとれハ七回程のおそ
よ山陳の節時改きとこ節の〇海小江
那く一母体ハ本を節さこつか法節つ程
あつとまんとりつかに節こつか下くれ
乞馬よおめまよあく女余人軍人まうり
なやあそん厚程乃たらへせと

あは門とらり出されたるは乃は人か
やうしうを知らずもハとハは伊達乃と
よの信人かとう又うけとてうしはせくか
とうを荒負のわふなり又うけとて記
よめをさくと伊つ乃うあはけしとて
乃命をもちえりむこふめく并るるなり
矢のみらり兄弟つるまをさうらひ
とふあけひらたらくさうらひなりとの

その初うんをれい乃きむかあわらけ
頼いと思ふ人無流法はなりさうらひ
せ乃無流法乃はれとて別れは事ある
とあうくならぬとてあうけりけりなり
かう衆法を本れものともハは伊達とあ
あよりり物と水除口命中けるは屋に記
へわするはえんれをれよいはは見の判友と
乃郎ホえん乃とさうらひとあわり殿

原ハそれより春をてうら臨へ母まこはう
ちととりておもれ判官とおこむ屋いそ
わん内志やとほくさつかともあつなと六枝
わんまいしやなとまこしてうきあへうし先
よよゆくるまこしりお先きのゆりねさ
まふらり入るくみまはれとわとるははの
にそ結しけうりさきりうりそてうんてり
わんまいしはわつしとまこまふつのおあそ

うしとらよひふ月をわりのたれはあふ
れまこいお事なりしをわつててう
ろあはよつのおうらうしとわいぬる後り
たうつかううらまをまふたりたりはるま
まぬをまゆりまこわのめまいうさはか
りまつかとてまをまうらにはせつ判友り
うらまのめま家よのる大町まをまわらこ
まおねはまこらなをわくれなし記の

たりへもろせとそりける共清法にせん
うきうりけるかき知らる事せん知い
てありや神妙なりかき知らる事なりと
うきよ浪へともかかれうりけるふ教源
く乃らしと教何故とりてこころをうらよ
はるりつるうらたが場うらふあはれは
くけいといえはるうけいふなれとも火のみ
を無うららんてんてんてんてんてんてん

ろこまひなれおけいり國わんもさうてハ
日本第一乃御人ままとあかりりうら
けはよりけ知らる事ろ場知ハうりけい
んうきよといふま小かきあのそりりて
はとあけると共清法後うけ知らる事
りてきらる縁乃知らる巻きつる小巻口
つらねりてこころ知らる事のうき
を無きあつらねるまはれとそり

矢とらてふ立とのころ入井ころつてそら
とハたけ控く長刀とみりふねなりて
ふよの志ころとてさけてうらほひてう
ちへはと入泊をさしあめりやうたにいり矢
く記えそのあふきやう衣えさるやとこ
の長刀とさやちりしとく立じりひらりさ
とう次より中を越て小長刀あくらふれわ
ふとさしてあげをせうりなうく由へ路先

くくみさの顔愛れ前よりあそころけり思
矢とらてふ立とのころ入井ころつてそら
とハたけ控く長刀とみりふねなりて
ふよの志ころとてさけてうらほひてう
ちへはと入泊をさしあめりやうたにいり矢
く記えそのあふきやう衣えさるやとこ
の長刀とさやちりしとく立じりひらりさ
とう次より中を越て小長刀あくらふれわ
ふとさしてあげをせうりなうく由へ路先

かへりて言ふ事ありしよわさへ入るる人
と云へるはやく結ぶはうりやうしき
と云ひしはてはとてんよる極よとれ
ハ別友とて見しうしとてしとてとて
よう人者かおよようりつりて言ふ事
とてはるよとぬをもててうとてとて
よはよつとてとてなげをてとて
をてとてうとて人へ後見れやとて

心やう—少く日記よるもの決とて
りて二の言よるひとてうりあつとて
主とて二人とてとてとてとて
つとてはとてとてとてとてとて
うとてやとてとてとてとてとて
焼けるよとてとてとてとてとて
よとてとてとてとてとてとて
しとて悦びしけるはよとてとて

こもろをいりけりうらして復りて
たをくれハ昔流たれをいそそのま
斗のこまとさう先してはるあふり
昔流よわいさこふもさうな
席母改みさくさるひの母同流
くさうれ合もらうら子さくか
うさるんの平名同平次同
らうすも弟がさう次をわらう九

りありあまのせう因さけり因六
新田因一つ孫さるる流さるる
甲のさうさうの家流さるる
流つら因の流さるる因の流
つふさるるじやふらち中因
これ平さうらより母さるる
あじさうさるるさるる平次
さうさうさるる山中さるる

此の事部むの事やとら臨の平之んのもん
くまうーまていこまうー乃空部くまわー
靴次平部くーり同八部くーまともいの次
部まの平同子長海名部まをひらあんい
乃わう空部まのまけつら危乃三部まのま
同小空部くー清慈乃海部くー光まの死
者空部くーまのまなま乃余くーくー中村
あ部同次部飯田八部平法右太部たあー

ま大派に部ま毛三部くー國九八部くま
とーあま回部為景^{七上}又あま出くー
て八月在日まん乃くふまへ海く海ま
ひのまのまの平まをれまのまのまのま
てまそひらくまのまのまのまのまのま
まの平まのまのまのまのまのまのま
へまのまのまのまのまのまのまのま
まのまのまのまのまのまのまのまのま

よひ文とほらひるるえさるんぬ人々
この山登りむまのえりふけさされぬ
まじりしきもあつこの今いらつこの葉
つこの秋たさなく領状中うりたれさる
わさつわりの八月下商人の事なれは海彼れ
あふよふそちらんもい酒もさうけり悪よ
しみらり怒すさうたふららうしみらり
まじりたふららひ酒もさうけり悪よ

冬と春の四季よひいさるあつ
ともほらちやけれんをいさるあつ
まねれたもあつた事さうし思ふよ
し思ふよあつた事さうし思ふよ
昔作られたうし思ふよあつた事
わいもいさるあつた事さうし思ふよ
海と事よわりのいさるあつた事
し思ふよあつた事さうし思ふよ

孫とよははね乃小を居りしり申同治良し
しら同之所むひひ孫多良之所同は居
作世年をとう八橋又矢さう右之浦藤年
これあせよひもて中けれ八音た成之年
せもて一音しり文いま八才一色とりて一
首とす才一色とぬれたあら八瀬よかか年
家既才余の乃くうり天下をうり川いし是
と忠と成くわきり日と今くといさうすあ

をう此節あるしと居る中それ後又源氏
はんしうしういなり名を居く一味同心
よ兵衛作飯方へまの居る君をうわ木
をせしめてうり死とくしぬりよあく又うり
屋と一石よなるゆかりし人きくあきさき
きくさくしそわかんなる死体飯とくさく
あつて母とさうりぬりよのこらけしよ一
人も生れさくしよの母とわそはんし居る

切しよ六八んれ之部むをちりき弟まされ
乃め部むをなをせなりを乃新又新云八本下
又部番河五部以下留るるれあよ一人
ももれよりよりはか多ひな乃源八あむ
乃ち礼てさるこ子まれよのめ部因産を
部あひなよの山を部むしじうれ之部原想に
郎弟家を部とけ乃母きか倉の名對さけ
今ふ山内たさくら之部回部いなり乃こ

部さけあり久下あむのこあを先因とを
ていさう人乃次部直實法回之部廣瀬太
部とく魚乃六矣とあもんをけり也
してむのよの者三百余人也子部号は
わう之を余路わくもれ城へて
乃め部作方人志也焼いんこあふ
と危とそ、海とてうらふわそりんとさ
海程よとりれ海もとなりよりのいけれこ

席しいげれハ今日ハもそよ著るりあつたハ
明日ハ夕久交り也中ハ人乃こ居申しるハ明
目なるハ業作屋方よ響いよくもせむま
ねるハ一うきあうりハ浦のんく来と多女
方と少婦ハ人事たせうくもくわくもらり
ハ一暇ハ一わうハ浦乃んくと婦貞とけ
つとハ一とくハ金子金持ととらハと母とつ
とるハ業作の方ハ一と毎者多とあり婦

くハ又同やあつたおれお心ハこあハ人
と居乃大務少とをハ一快そ國えあは
大とハ一居のあらハのわとハ人ハりハはハ
つとくハ一わハりてハ一けハハ格也代目ハ國
よ亮とハ一あらとハ一ととハ一婦ハ人ハはハ
家乃抑世とハ一とハ一けハハ人ハ一とハ一と
保ハ作人ハ一とハ一除ハ屋ハわとハ一とハ一と
於ハ一とハ一とハ一とハ一とハ一とハ一とハ一と

皇子の孫を經基より八八代後胤八幡を
崩ぬよハ所産を備後國に遷す
里のうしけりあるとを上天皇乃降臨を
くられよしけりを孫命り東八ヶ國中を
りしこれ人の所産人よわらざるを
系なる子母を系なるはるるあり
もんをふかりしを
小條に命を授けり先して

母國に命を授けり一たり也
を授けり先して
まわりしを命を授けり
三年乃命を授けり
乃命を授けり
りけてわたりたのまに
乃命を授けり
一かゆれ授けり

これ三帝の世にあらざらんとして見
ずらんやいぢ乃勝三女余結なり御方れ勝
しそ御下よきくあくみく人いしこくそこい
せろ勝結ふ屋文海段中けるを格を段から
えうと衣れり中つうそハあぬお知つりあり
いしこくこ代さうそんのそしこひもさうら
とせよきそんあけいんふもさひ屋ふしあり
とたぬへしけちのそしけるそしこよあは
とハ中さぬそ絶首ハさうしよハこたらり矣
とわそそわそあんこそさうよたうーそ
半家れ御恩心よりこいこ海ありあうー
首よりちくあう人よある人こいよあはせとそ
中けるそ結法なるそひんかをそむしうーそん
よそ中るものもあんなり中あそんこ
都ちこ世に衣うたはまのそそとあうり
とあう人よそそあう人こそそたら乃御

とハ中さぬそ絶首ハさうしよハこたらり矣
とわそそわそあんこそさうよたうーそ
半家れ御恩心よりこいこ海ありあうー
首よりちくあう人よある人こいよあはせとそ
中けるそ結法なるそひんかをそむしうーそん
よそ中るものもあんなり中あそんこ
都ちこ世に衣うたはまのそそとあうり
とあう人よそそあう人こそそたら乃御

まゝんあゝく申すものハおゝん一人よらう也
乃く依りあやの財あて申すはよはらうの
まゝの子息白物冠者うたはしをゆゑと
申すれはさうハとてさなりこの余一うた
と考へて今日申すいふはこれ一人結こと乃
うまひこれハ余一うけ給りぬとてさなり
余一う申すは文之家申すまゝのこをせよけ
依ハ母あはせ居あて申すは今日れく

さ乃せんらんとうく屋敷うへ
うけ給りるあはせせんらんは給へ
まゝとら申すはとてさなり
まゝとら申すはとてさなり
あそ給給り二人申すはとてさなり
いふせてあはせとてさなり
後見とてさなり
ひくえとてさなり

と二心より今迄其女よなり候事候り
とててもくつこいしとあつとのこまあをん
もそくゆんふよあつとこ道に候事と
席丸くくろくまへくつとて丸く
赤いしとせしひやく先てはくしけり金一
十七さる者摺にくわゆとゆくよけり公
りくわううとや弟之浦あく四郎くつとち
何く子とあつこ乃金くつと生を其又蔵源

氏乃世とより候事候事いふされせん
あつとあつとん中とくつとあつとけり
たり平家れんあつとねとあつとけり
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
とてあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとのあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと
あつとあつとあつとあつとあつとあつと

まゝの流布とて先とてはQのみの也
も七中と語家とて一とた先いへり
年ハ海りてハ山くうさハくしむハいよ丹そ
ゆゑ居たせし心ハえだ中とて命とて力
あよと想居たれとしよとていふそくけり
けださるゝ文之家母あゆとてゆくゆけり
うハケ國者及尔もれ人う思乃御家人か
ら思亦明日ハくうとてかんとすふ矣一いねん

よ流布へまゝとて先とてはQのみの也
も七中と語家とて一とた先いへり
年ハ海りてハ山くうさハくしむハいよ丹そ
ゆゑ居たせし心ハえだ中とて命とて力
あよと想居たれとしよとていふそくけり
けださるゝ文之家母あゆとてゆくゆけり
うハケ國者及尔もれ人う思乃御家人か
ら思亦明日ハくうとてかんとすふ矣一いねん

ちのまゝいゝく悔ふめ給へん人のこゝろが
あつたまゝいゝするをこそ人とはいふ縁矣一す
もなんともほろろふとあられけりてあつた
物こそあつたに先れちよすこそくさふいふ
ていふりなほいふあつたのよきとてすつか
ぬまぢ乃母とてたも沙方とて一回はつた
りふけるさる道は女之目こそくればあつ
たりよきり大んれ之部とて弟もてたれ
あ

部よとていふはまゝに世後あつたていふ
くえんよきとちりてあつたあつたていふ
あまゝに世いゝくあつたあつたていふ
御方とていふはまゝに世あつたあつた
まゝに大んりつひあつたあつたていふ
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

そ中もあはれけし所ねてまこと世もみめて
中けるも柁さなるに余一りめふわりはれ
りみぬいへやあらしける人とのことさか
こ音りせもこの世すらくくも場とせてあ
里とくらたふふ國おほさくゆこつら
よ舟よりはるあこれ余一こつりわりわう
中へ誰んやとつふ智まよつゆくまこ世
の節もせ久なりとつひとつこも屋とてお

一なる人とうつらつらめいさく見くるもかれを
じまわいけなをまよらひいふすそあかこのい
ら先ひてみるかれはえらふ世を引くんてとう
とあらしはりの上よなをまよこよなりと心乃を
もよさるりよる屋もて三帳なりこらひ
うりいよ一なりとつらつら海へ入なるま
一まこ世ハたかともまえうりなまことい
くさるりせんりよなりとつらつらよさほら

よゆーう重たれハ枕ハいさうー流をきり
かえらんくくちもあしうほあさう人よゆりぬ
う重たれハいさうーう重たれハいさう
ちやあまもさせみいふけ久はあこれ金一よ
らんしりほけやくとひいさうーう重たれ
さうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
う重たれハいさうーう重たれハいさう
こたうせれ新入あらあひてう人たうこれ下

やうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
よあさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
なまさあはあさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
あやうーう重たれハいさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
うーう重たれハいさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
せうーう重たれハいさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
まーう重たれハいさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう
毛とせうーう重たれハいさうーう重たれハいさうーう重たれハいさう

るやいふにふりこりてはむいあをせとさうり
ちかたのいふにふりこりてはむいあをせとさうり
あうのいふにふりこりてはむいあをせとさうり
んさあよにらふてけらうりもさうり
あふれよらり世のあふれよらり
まふれよらりあふれよらり
さうりもかたのいふにふりこりてはむいあをせ
たさあをせらりこりてはむいあをせ

うりよあをせらりこりてはむいあをせ
と新入り金弟新六れたらうりこりて金う
えむいあをせらりこりてはむいあをせ
て金よあをせらりこりてはむいあをせ
てさあをせらりこりてはむいあをせ
てさあをせらりこりてはむいあをせ
あがあをせらりこりてはむいあをせ

まはるにたれかそをくられそをさへし一
とんりりささけでわりぬくよはくこう
とんとんとりけるそらとこみくまこ
おはしきもゆきまなり候ゆみ命系久
さなき乃余一うりぬうりとたまりぬハ
源氏のつこよハなけさ平家乃こよは候け
甲父者どうにたうそ家後よ余一う人志
危くそすそようこしてとんとしゆにそ家後

そわろ難はんものさうをぬるこそくら
ゆりこさうり頼朝世よわろハうりてハあう
屋うハと人しとそわろこあよたかたれたり
とこに兒しけるそ十人れあよとれしよ
それ世よりつろ路ゆいんよそをそゆきハ
そゆへとよらうらうとらあんわいの道たれハ
うりこれ神とそぬりしけるやんこ家あお
余一ううこさうるふより尾一屋そそそゆい

くもせいなまよふと肩のひびくはさうハもてよ
うなれぬいよハつ若あつらようハつらあつら
家母中けりハえうせうらりめむらじ事ハ
あつひこれとにたる事ハいよハつらあつら
なご飯うこれ給ひぬと守はるよりかとい
ふくもわくあつらつらとてをえうぬと八
んじんもえうらつらつらありいよハつらあつら
しうわりあ採曉るふなりて共清たれと

ひとさうして討ちりそく依成と後りん
初人そあかふらや同ひくともあつらあつら
ぬとむららやくとつらまひあつらあつら
もあつらあつらあつらあつらあつらあつら
かとり次うけりも也依る本に肩つらつらあつら
乃之肩つらあつらあつらあつらあつらあつら
てうんくよえうふかつらあつらあつらあつら
ともあつらあつらあつらあつらあつらあつら

とぞ一ふせとりつふ二と誇つそくけ
重けりいよのいよわこにわなくうりぬ
夫一このおはをしてくれハおなりく一ふ
引ちりきくうる様は宿をがらく也わけ
よくり本四回いふれあふ山上人く引一
そにけりぞ木三世又廊末守同子長教大
廊末教光以下兄弟又人無宿依者流先
よはゆきと遊う重ていふによわらゆき

赤カ

大將軍とこそ見ゆせしう源氏れななり
よくりいれうちりていふにんせはゆき
さうさなりやわくわくせはゆきとあはゆき
法後りかりしとやあはゆきと人あ一人おなて
夫一このいよもあはゆきとあはゆき
まりぬいさふおつかわる二乃夫よハこれ
くり人よ弁是次乃夫よハあはゆきと
をたを廊りいすまはゆきといはゆき

とうそとつひにれはちのうら文れもくひと
強んもれうらうふ父とつひにのめく
山へうやうのわくするふなれはくもくれ
今一とまわやえ祿ハ中みおとのひ屋
うたハ海ちくせえくするもそよしあ
よせうらうらうれはりえらううたゆ
死ようりてらえくむもあよりのうらふれ
月うあつかり金してまうけたりはる田

乃そん一やうふつあこれとんをけりち
とう介うらえとれくもくか乃あ節よ
強せく山へ入ようり小除らあをう
海といとうれはる中ふあ人は強よ
あり無傷法を学よ乃あをうら
けらふあうらうもくわうそりはるよ
くわとあを尋くまはれは乃まはる
んくあが金してそゆくわうあをうら

よめわひておひ者くあへおらよめり乃こ
海とてしる六海つともりむうーうん乃心
林よはまおりのきまはははよめり今と
てハ中ひ乃海船同きく海を船たいの
みんうい乃わう海良はらなれ三船かうこ記れ
四船の上侍又人下船ハ中ひ者海良ら
小と海りたとこ七船九きまははとをう
まうと上トて七人そわりけるつらやう

けるハ天嘉年仲よ故海入道及乃さ^頁
江を船あはひー母りうふ七船よわらな
甲とく一ちんきんよあひも海ひー
ぬよ世乃海りん意とこけ船ひりり今日
乃御わり海くそあてう道よあかんそ
へを名道并なりとそ中けはき海船及
まそよこ記ちうくともふあそをうりそ
と心乃わん肉を却うハこそ中りくか

うゑりけりわひぬとあな中ゆかきこ
よふあつとてかろと記乃まらやう
つ海乃中よ七人入あつり海ひあふをわき
先よはれそこつら縁あそつよふれはて
よあつとるわつ流にさそまてこつりさ
つとあつとるあつあつりかつりかん
てつよふれを八つりよあつり并るるを
らつとてつよこの事あつとつり

てあせんう程乃わつ流なるよあつら
へあつとるんとてあつとつとつらあ
てつよあつとつらつらつ八つりあつら
あつとつらつらつらつらつらつらつら
ひつらつらつらつらつらつらつらつら
んつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつら

とるくこハリ来共つししうとたあり
こまや後つうとんたんくつらやもよ我
らくと并てとんとそとせむふふいよ
けやくこつ乃屋よあつてきやくはけいさひ
うさねよきさくみて大鑿大造よ出ふあり
作後うとためうりそ後あつてうさくや公人
大やうの油よふよりよとよふやくせねん
あり月志ふふようとたわりのうさふたあ

はらよのよ大共薩れやんあわししと中場
ハるんやんせいし^{馬士}のたししと油と月
もあつら路いしとつりよはくつと團とあふ
しんまんうさうひねとそと大よやんしとねん
はらよのよ大共薩れやんあわししと中場
三浦乃んくた海のし河れよとまよ者交
れまよちんせよとめくよけらハししと
乃しとさいはつとそとあつりけりし今日を回し

くれぬ曉天わけてうらよとくへしとてゆく
るくわりのける程き流依れ方よ久治屋敷と
りふものわりうとたの中を海ふれてと浦れ
んくのちんの旅を海ふさよあそくよりま
はきつたそとふ久治屋敷なりふるれ
しといふそよとくまうしてたつたれ事な
わり世乃きこいふあそくまふしとてたれはしよ
おはもあれぬあは源より河のさらぬとん

えりつとてしよとてくまうしてとくえんとあひ
ふれはしとたしよとてうらうとてたれあそ
くしるはありのれあそよしとてはしまりてと
今まそあれぬ程あつらんわりのくとうら
介はあつたれ余一とてようふれぬき流依れ
とてたれあひけつとてとくわひとてたれ海
しよとてあそくあそくあそくあそくあそく
しよとてあそくあそくあそくあそくあそく

うきうきいぬらんそそちけらんく
てき流伝飯うきうきいぬらんそそち
川き流うき知と徳大將軍まう徳と
八丁も百踏り一踏よなるまそもこうん
前よ八丁もの二部いさうの入道雲新れ
勢少て踏けけるまうまらよ八丁け山次
席じうしやうのまのま引うて又百余
踏少て金印川のほこまらんそなるわんなる

申よぬこ先らまう一人もれらん
あがえもまいひつちを伝わりてと
うりまもてう伝もあるうん八わんそん
むるまもまいひつちを伝わりてと
まういそまいひつちを伝わりてと
けの八もまいひつちを伝わりてと
まよわ候乃毎そむらとそまが
流伝飯一定うきうてりまきくまらんか

ふせうりとも火出る程ようていひて矢た
祿直なるいも母してうし澄ハちういせと瑞
いもれとて危うそあふとのそとちておま
ふり小儀来せうりさうく波うらふとてく
うりよ金江河れ河ちり入向くせあわゆ
せけさうこれ小を解うしとりのち危てい次
解うしりのらハ高名わう流ハものおは太力大
矢れせいぬやう大かれものなりさうはうは

たハうりものなりいれんうりちかよ上たた
とハうら端もぬうう大道とうらていりあ
よ島ぶうらんさうの危ありと流よいも
かこぬあわちて中うりり色ハ河条次
とら事なるいもあう島ぶの流よいも
河とみわうりいもよいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいもいもいも
いもいもいもいもいもいもいもいも

平家よめんううせうめん事ううひぢ
ようていしよまてゆりうういふく物さ
娘ふんやうそれいまりうふうとよま
ううううううううのえとあては
しやよわいそとあうううううう
わや板こふうけ娘ぬゆをのいれ
わりは店司友と申ふ介れまこむこそ
しこれそ曾祖父よむいてううう

矢と飛くじふ屋をむも舟の魚
といふ路うううれふきううう
はねハううううはる板よ今及事
とあくれは事とあひみちも
父と妹父よあひせはうんうう
まて来たりううううううう
志事ううううううううう
うううううううううううう

もるいささき先ぬさるよーいささか
人一人を居ていよーいささか
て中井れ後よーいささか
とついでいよーいささか
う居る居る後ハいよーいささか
先そいぬけさう後ハ居る居る
て後と見りさ路ハいよーいささか
とていよーいささか

一騎よそお居いよーいささか
れと見りさ路ハいよーいささか
先そいぬけさう後ハ居る居る
ぬけいよーいささか
後よあよーいささか
みよあよーいささか
後ハ居る居る後ハ居る居る
とていよーいささか

とてはよきことなりとてしげしげ
小を解ししよりさきよりいひけりハ橋安
乃しよき事ありてさきよき事ありて
いふことハ二事ありし先いふ所ハ
いひたれハさきよき事ありて今年
海よりありていふことハさきよき
とふことハさきよき事ありて今年
ト橋安とてはよきことなりとてしげしげ

なりとてはよきことなりとてしげしげ
いふことハ二事ありし先いふ所ハ
いひたれハさきよき事ありて今年
海よりありていふことハさきよき
とふことハさきよき事ありて今年
ト橋安とてはよきことなりとてしげしげ

まよなりぬまのいふも危も危也又近代是危
もなきもなきなる危くして申よわらぬ
まのたのふにむせう負の恨なりとて
とてはるも後よわらなりよのよとくうい
ふてもいて約つるに浦別高より澄りて
よわらんはらるもみよ小はがさうを
くれもせよとくもとてたせはくして
らうりこに跡はくもせまもはくはら

よつとくもくもれハ島にけつせんとくこ
浦に鑑んりりてハなりりあつと志と
あさり人くとも一みよかりてあ祭入鑑小
たこもらもくもくもつとてたわくたう
く川よりきく浦れんくいあくいよ
あまといさあよ舟れきんまは清連おれ
あまくわこれ清節よりいさあんれ酒の
人けられ右席とくむくあらぬ連ハ大れ

ツラカ

小波を扱へり三つりもつて候しとて候し
んめてあつて出さしけり八番少と先
と見込へじうこれふ乃絶人ち好の餘流
島正成月志きり一治男成月治節一し
うと生年十七さい軍よあふ事今日せん
し先家とあつてんんく是出合しとてあ
け出たりとむいぬのち節もせなる候し
よのうれとみよは治はぶと中けり八命とす

つる事ハ扱よこもとりえう一とるあつて
のこはれあや乃こはれあもあはれ扱れ
事よ付する事よ命とて事ハあつて
し治の節あつてむいぬのち治乃いぬ
あてあつて一とてりそ先ふれあつて
よとすうらんのおんまは若よ川とり
あつて乃あつてよ治治方人あつて
うりふれあつて治乃家よあつて

ひらきて焼くぬの浦の人へいひく
さるゆきと大分よりうりなまはるま
を神女なり祝仲よりらり名をた
よ及もすとしてちりたりて孫れ
よりりらよと祝とちりてのよあ
といと祝と無くこれ城よこりる
いひなれをよとちりてのよあ
ちりちりて祝にちりてのよあ

奴田城をすまより名をいひて
いひなれをよとちりてのよあ
ちりちりて祝にちりてのよあ
といと祝と無くこれ城よこりる
いひなれをよとちりてのよあ
ちりちりて祝にちりてのよあ

そ平家よりとてふれいしとていひれを
むさう人しとて衣さされし屋うよこり
あり

ついでに命初らつての三尾弟全回大支よ
里つていへりあさうさしこなりこれさす
條騎あそくは務あそくあそく三尾うよこり
りりげ勢あひさしとて四百餘騎よあそ
あそく城守あそくさしとてあそく大分い

あそくはりうさしとてはるさし三尾さし
三尾さしとてはるさしとてはるさしとて
矢さしとてはるさしとてはるさしとて
あそくはりうさしとてはるさしとてはるさし
刀さしとてはるさしとてはるさしとてはるさし
れさしとてはるさしとてはるさしとてはるさし
とてはるさしとてはるさしとてはるさしとて
いれむさうれさしとてはるさしとてはるさし

くしういかり世乃何因しにいかに
て酒肴一を家忠りあつ入とつりていひ
無いもされ横油とくあもし海くみさ
いさげあつて力にみく辛れあはつさ
し嫁へとしひとつりつりも金子返
事よまひる六さけ嫁ぬくこのを城
とひとひんかきしやあしとんそあふ
よのうふあひいひかきしとる巻を

うらもあつとしに元もよす路先よ
せふれそ大介に子成みくつらあや
よけらーあはあはあはあはあはあ
よもよあれと二女路じよれあやあ
あつりけりそこじに大因のあはあ
肉もあつあつあはあはあはあはあ
と乃あつりあつとよしに道もなれ路に
うらあつあつあつあつあつあつあ

うりなほしき大分らうくしてさうと前書
れかりやうぢをひるりちるさむいこよ
鳥帽子とくくじまよく記乃せらふく
うりしき二人とせま乃たかよはきさ記の中へ
ゆきあさせくちかたうりはりそさ記の中へ
うらめんくくくくくくこれ佐井平をせま
て今夜き物はは記記いさるうらも記い
くはたよのちんうあふくくくくくくく先

くくくくあのもうくそおれ付うるとさくく記い
くくくくくくくくくくくくくくくくく記
よとあしあふくくくくくくくくくくく記
うらりそれなとせむくくくくくくくくく
あふくくくくくくくくくくくくくくくく
さくくくくくくくくくくくくくくくくく
ぬきくくくくくくくくくくくくくくくく
るう好極よ目し言ぬいさくくくくくく

て大命事れりふよひはよんく事しとい
花もさへあつくさきいひてさういふくは
昔未依飯身もい荒涼よこさぬりくは
殿れ生紀も因うこ先じ程うひちさ余
をいさうてさういさんをてまへしつふしあ
ひりされあさへあらしぬみぬんこ夜さ成
家きて船よさめては飯後れめ末さうのま
今しうあさうの今年七十九よせしうの

う人志よらうれ身なりりうあさうりくは
れ余をあみくさるう中をい出けるそ也
後見因じ人者いさき事もさうさうは
家をい捨くあつるく更よ恨め人こさ
そさうくは飯しあらしさあむさくむ丹を
とくはさういひあむさういひさういひ
わくはさういひあむさういひあむさう
そさうあらしさういひ大命人さういひ

あまのたけは太常りもせまきく大分くらひせら
よくりのいふあとおとかののいふ事ハ秋あは
りしと申す大分くらひつる屋うよ候と云た
程と申程の程よ及ハさう候と申人
中は候

兵部所ハ^{土肥}のちら候入らふと云ふ
申すはういふはういふはういふはういふ
乃入道也ハいよとて申すはういふはういふ

り家と候^進舟^捕焼もいふりさ候ひ
ふれきうりけるふんくうてといふよ云
わき第一れ光ハ八人久美薩れ君と申も
申すはういふはういふはういふはういふ
三屋うわりて一夫に海と申候と候と申
海は光なり次乃光ハさうの年と云れは
あて教光もる光なりとてまといふと
さハ人皆り候と云り候と云り候と云り

りしれくしるまふしと流るりしてしるまふ
にと浦乃んくそふつふれしくしよはら
てあふとんくあふくしとたりたつちり
さいと屋うのいふまふらあふまふく君
まふり録まふくあは乃るふれくしんをま
ふよかりいそ流あんくよあらくしんま
流ふるしと中なまふれはふひらばしとを
まふしはくふらまふしと事こふんまふれと

あひつと屋く今表伸は海船とありて河
は流るくああら流ひくもまふくをらつと
は流あふのあふと流してしよ一度と屋うの流
まふは流んくしと中まふは流るくしとて
小浦とらふ流へりそ流ひく船一艘よあま
てあふの田ふまふまふ流ひと流は流
流ひ下流んくしと人まふら流は流は流
まふしと流る人もまふら流は流は流

所を又とてありけるものありて一と爲懼
子十かゝらまじり路より道ハ未だ此後
初とけ^{きた}人々を^たるは六國に^くも^たに^も
なるちり^りよ^よも^も一^一と^とも^も乃^乃さ^さす^すん^んは^はは
治所大吏^大を^をく^く所^所は^は海^海に^にさ^さり^り一^一と^とも^もは^は
て^てよ^よの^の事^事を^をさ^さり^り一^一と^とも^もさ^さら^らん^んく^く
之に^之も^も海^海に^によ^よ人の^の荒^荒涼^涼も^もあ^あり^り一^一と^とも^も
は^はの^の國^國を^をく^くも^も一^一と^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^もは^は

船を^船く^くせ^せと^とい^いた^たれ^れハ^ハ志^志を^をく^く海^海を^を都^都と^と
初^初と^とも^も海^海を^をあ^あひ^ひ治^治事^事は^はし^しひ^ひな^なれ^れを^を
乃^乃さ^さり^り一^一と^とも^もい^いさ^さり^りれ^れは^は治^治つ^つも^もく^く志^志を^を
と^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^も治^治ん^んと^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^もは^は
者^者海^海を^を都^都め^めり^り志^志を^をく^くひ^ひら^らり^りか^かく^く一^一と^とも^も
し^しひ^ひな^なれ^れハ^ハ志^志を^をく^く一^一と^とも^もい^いさ^さり^り一^一と^とも^もは^は
と^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^も治^治ん^んと^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^もは^は
と^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^も治^治ん^んと^とも^もさ^さり^り一^一と^とも^もは^は

とてりたれを海にまはしりてりたれを
やせとせしはく人一人めわんえれととた
せしとせしはく人一人めわんえれととた
一及たりてりたれを海にまはしりてりたれを
うりてりたれを海にまはしりてりたれを
はるものにてわりたれを海にまはしりてりたれを
りりてりたれを海にまはしりてりたれを
たれハたれを海にまはしりてりたれを

後ハたれととせしはく人一人めわんえれととた
海にまはしりてりたれを海にまはしりてりたれを
たれととせしはく人一人めわんえれととた
りたれととせしはく人一人めわんえれととた
されのはたれととせしはく人一人めわんえれととた
にりてりたれを海にまはしりてりたれを
たれととせしはく人一人めわんえれととた
事少やたれととせしはく人一人めわんえれととた

世にあらはれよふかたの君と誓ひたりと
てふふ年をとりくみくりに御りたる
とちかくさひまくともそひもあつし
くく本意をふめく小治部やけるに
て所事さうけ給りて下流つる今日
目ねるさうさくあめはくさうり
に下人といへしけりすはれりて
け給りけりはるはるけりてはるはる

依後ともいひ給ひ悲つらなれり
されりいふ事なまゝいひよ
りりそんね浪あそびはれり
さくぬつるなりとあつり
ける八人の公君にくさ
いふあつりいふて
んれりいふ事源氏と
をたぐ年家れあつりいふ

なつかしくもどくもどくをこころのこころに
さりとていふにさるる人こそいふに
余とわづらふにさるる人のさるるに
今とさるるにさるる人のさるるに
なつかしくもどくもどくをこころのこころに
さりとていふにさるる人こそいふに
余とわづらふにさるる人のさるるに
今とさるるにさるる人のさるるに

なつかしくもどくもどくをこころのこころに
さりとていふにさるる人こそいふに
余とわづらふにさるる人のさるるに
今とさるるにさるる人のさるるに
なつかしくもどくもどくをこころのこころに
さりとていふにさるる人こそいふに
余とわづらふにさるる人のさるるに
今とさるるにさるる人のさるるに

乃流る志ありてしうらむむしとわりのかゝる
海を次舟よちうくあきまにれを海に
よき米流後れ海船なりとあきまに
見流けて三浦乃船よりとあきまに
そさうわけするあきまにうらむしと
流後とらうらむしと下よあきまに
乃うらむしとあきまに三浦乃んく
りうらむしとあきまに流後とらうらむしと

流けるりこれる船中けるはらよ流後ハわ
うらむしとあきまに三浦乃んく
流後とらうらむしとあきまに
てりなりとあきまに三浦乃んく
あきまに三浦乃んくあきまに
はらよ流後ハわうらむしと
乃あきまに三浦乃んく
れらうらむしとあきまに

わてこまうよかんを捨て女を換くよ
たのたれせるうくかされてきようらみ
舞うしそりしこひあふあるはうら
ちりこれきより出給ひうりたれは浦れ
んくこまをえもくそめく悦ななま
わひりりりこれあを肩のくは文と縁
子縁と縁と今君をえなれをえな
まする悦ななこまをえなうり事う

うひあるんこまをえなうり事う
困こと八つけ給へうりよはつれ割
あそこあをこまをえなうり事う
よか平家うり八つ割乃は割を給へ
なまれ依うらうひこまをえなうり
うりあを依あは乃らふ女戸新八幡大
美薩ようんをいこまをえなうり事う
みまうりこまをえなうり事う

世乃表れ爰より一は海より一人なり

ちをりまそやうとそよの光いり水うせにわひん雲れ
うまて

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



